

平和カンパをありがとうございます

2016年8月 ベラルーシ「希望」
『腫瘍病・血液病・その他の病気の子どもたちのための特別保養』

チエルノブイリ子ども基金

ベラルーシの子どもの保養

■場所：子どもリハビリ・健康回復センター「ナデジダ（希望）」ミンスク州ビレイカ地区

■期間：2016年8月2日～8月25日

■参加者：子ども34人（8～17歳／ゴメリ市、レチツァ市、ブラーギン市、モーズィリ市、ブダ・コシェリヨヴォ市、スヴェトロゴルスク市、その他）、引率者2人。

■参加者の病名：脳腫瘍、目の腫瘍、白血病、悪性リンパ腫、甲状腺がん、精巣腫瘍、卵巣腫瘍、腎臓がん、肝臓がん、血小板減少性紫斑症

参加者の多くはこれまでにナデジダで保養をしたことのある子どもでした。今回初めて参加したのは9人、また日本の里親から支援を受けている子どもは13人でした。

到着後、医師による診察が行われ、それぞれの子どもの滞在中の治療プログラムが組されます。保養期間の中頃に再度診察を行い、治療の効果を確認、治療プログラムが変更される場合もあります。保養の最後の健診の結果は子どもたちに渡され、親や地元の病院の医師に伝えられるようになっています。

引率者、ナデジダのスタッフ、医師、看護師、心理カウンセラーたちは、それぞれ連絡を取り合い、子どもたちの健康と心の状態に気を配ります。

滞在中、午前中はそれぞれ決められた治療を受けます。マッサージ（手技によるもの、水圧を利用したものなど）、アロマテラピー、



スペレオテラピー（塩治療：天然の塩の部屋で過ごすことで呼吸器官の病気に効果があると言われている）、薬草療法、歯科治療などがあります。午後はクラブ活動（陶芸、絵画、手芸、木工細工、音楽など）や、催し物（コンサート、ゲーム、コンクール、スポーツ大会）などに参加します。子ども基金スタッフによる教室（折り紙とミサンガ作り）も行われました。三食の他に軽食（果物、ジュース、ヨーグルトなど）が3回あります。夜は映画観賞とディスコ（体育館で小さい子どもから大きい子どもまで一緒になって踊ります）が交互に行われます。

自由な時間には、敷地内にあるさまざまな遊具で遊んだり、広場でサッカーやバレーボールをしたり、図書館で本を読んだり、レクレーション室で仲間とゲームをしたりと、思い思いに過ごします。

今回、初めて保養に参加したアーニヤという女の子（14歳）は、1年前（2015年8月）に抗がん剤治療を終えたばかりでした。長い入院生活が続いたため、初めはなかなか他の子どもと打ち解けることができませんでした。薬の副作用で太ってしまったことにコンプレックスもあり、他の子どもたちが写真を撮る時も、「私はきれいじゃないから」と写ろうとしませんでした。

天候の変化で体調を崩し、施設内の医療センターのベッドで数日間過ごしていました。看護師は「彼女はもう回復しているのですが、気持が外に向けられないようです。これまでずっと病院で、医師、看護師に囲まれる生活に慣れてしまっているのでしょうか。あとは外に出て友だちを作ろう、という意思の問題」と言



いました。風邪をひいて熱を出した、同じグループのマリーナという女の子がアーニャと同じ病室に送られてきました。二人は仲良くなり、マリーナが回復するのと同時に、アーニャも外に出ることができました。ちょうど翌日はアーニャの誕生日でした。同じグループの子どもたちが彼女の誕生会を開きました。部屋に風船を飾り、お祝いのカードを作り、プレゼントを用意しました。アーニャはみんなに誕生日を祝ってもらい、記念写真も撮りました。次の日から保養の最後まで、もう医療センターの病室に戻ることはありませんでした。そして、アーニャと同じように、少し引っ込み思案だった男の子と仲良くなりました。

やはり1年前まで抗がん剤治療を受けていたダニーラという男の子(8歳)も、初めてこの保養に参加しました。最終日、子どもたちはそれぞれの感想を言い合いました。参加者のうち最年少のダニーラは「この保養に招待してくれた日本のみなさん、ありがとうございます。僕と遊んでくれたここにいるみんな、ありがとうございます。そして僕たちの世話をしてくれた引率者のみなさん、ナデジダの先生、お医者さん、看護師さん、ありがとうございます」と挨拶をしました。その場で聞いていた大人たちはうれしさのあまり泣きそうになりました。

＜小児科医：ジャンナ・I＞

このプロジェクトの参加者はどの子もとても注意が必要です。たとえば、血液の病気の中の「血小板減少症」は、免疫力が低下するといつどんな重大な病気になるかもしれないという危険性を持っています。白血病のようにがんでないからといって安心できないのです。一番深刻なのは、免疫不全症のこの男の子です。長く生きるのは難しいかもしれません……。参加者のリストには脳腫瘍、腎臓がん、リンパ腫、などの重い病名だけが記載されていますが、ほとんどの子ども

が他にも病気を持っています。心臓の異常、慢性扁桃腺炎、腎孟腎炎、脊椎側弯症などです。

＜引率者：スヴェータ・N＞(ゴメリ市立病院勤務、看護師) 参加する子どもたちの親に事前にアンケートをとり、食べ物の好き嫌い、アレルギーの有無、飲んでいる薬のこと、趣味などについての情報を得ました。24日間一緒に過ごすのにみんなが仲良く楽しくできるように配慮しました。子どもたちはみな病気を乗り越えようと懸命に生きています。ナデジダのスタッフは子どもたちのことを最優先にしてくれて素晴らしいです。

＜子どもの感想＞■今年もここで保養できて友だちと再会できてとてもうれしかった。日本のみなさんに感謝します。(ナースチャ・15歳) ■クラブ活動、ディスコが楽しかった。毎日忙しくて、お母さんを恋しがる暇もなかった。来年もまたここへ来たい。(リーザ・9歳) ■ナデジダでは毎日が楽しかった。良い仲間と出会えたのがよかったです。(イリヤ・15歳) ■毎日が充実した大満足な日々だった。ひとつだけ残念なことは、私はもう来年はここに来ることができない。ナデジダなしでどうやって生きていけばいいのか……。(マルガリータ・17歳) (※ベラルーシでは18歳から成人。ナデジダは子ども専用施設のため17歳までしか保養ができない。)



Chernobyl Children's Fund

〒177-0035 東京都練馬区南田中2-7-7 TEL/FAX 03-6767-8808 E-mail cherno1986@jcom.zaq.ne.jp
HP <http://ccf.j.la.coocan.jp/> ◇事務局だより (ブログ) <http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/>